

## 2022 年度事業 進捗報告書（実行団体）

- 提出日 : 2022年 8月 30日
- 事業名 : 『共食』と『食育』でつなぐ子ども居場所物流整備事業
- 資金分配団体 : 一般社団法人全国食支援活動協力会
- 実行団体 : 特定非営利活動法人NPOホットライン信州

### ① 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成 時期	現在の指標の達成状況	進捗 状況*
0101.ロジ拠点（共同事業体あるいはコンソーシアム）が解決すべき課題を共有できている	ロジ・ハブ拠点の管理を担うメンバー内で解決すべき課題を共有出来ているか	物品の受け入れ配布等システム化に向けて共有化の構築を図っている	2024年 3月	達成状況総合90% ① 長野市と塩尻市に大型物流拠点として倉庫の設置を配置100%。塩尻市有効活用80%(課題専従者体制)。 ② 今後は、受け入れ実態に合わせて、必要ヶ所に配送が行われているが、システム化が課題となっている。75%	1
0102.ロジ拠点（共同事業体あるいはコンソーシアム）が協働して事業を振り返り、改善させている	①参画団体・機関によるネットワークが生まれているか ②参画団体・機関が継続的なコミュニケーションを図っているか	①ネットワーク会議に参画する企業や行政が生まれている ②ネットワーク会議や食フェスタを通じてコミュニケーションできるコミュニティの素地が生まれている	2024年 3月	① 達成状況50% ②達成状況60%  ② 2022年度 特出すべき取り組み 【ネットワークの進化】 ・5月19日「共食でつながるフェスタ」企画会議～実行委員会を開き、食料支援の持続可能なインフラづくりを共有。 ・新たに、今年度から実行委員会に、参画企業の代表として長野牛乳(株)社長や社会福祉法人信濃福祉救護施設旭寮施設長が加わり更なる広がりをみせている。 ・一方、県内の共食文化継承として、OYAKI FARM（おやきファ	2

				<p>ーム)を拠点に、「長野名物おやき」1万個/月の配布ネットワークとおやき作りなど県内に広がりをつくっていく。</p> <p><b>【新しい繋がり】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月9日内閣官房孤独孤立対策室から「孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム」の相談面談・物資支援の要請を受託。内閣府を中心とした官民連携のネットワークの広がり。</li> <li>・6月13日ヨシケイ冷凍弁当16,000食受入れ体制を構築。県内の長野市・上田市・松本市・塩尻市・飯田市の5ヵ所と岐阜県で受取、各ネットワークハブ拠点～各子ども食堂へ配布され、多くの生活困難者への支援につながった。</li> <li>・5月31日大塚製薬カロリーメイト96,000個6ヵ県内対応</li> <li>・7月16日長野市で「信州子ども食堂夏フェスタ in 桜スクエア」は、15のブースが並び、420名が参加。</li> <li>・7月30日塩尻市「子ども・若者応援フェスタ」でお弁当800食や食材、生活支援物資受取配布など2.2ヵ対応。</li> <li>・8月18日～19日長野市で『出張！信州子ども食堂 in 裾花小学校』で2日間行われ、今後学校での拡大が見込まれる。</li> <li>・8月29日県社協とのコンソーシアムを組み「社会的養護出身者若者サポートプロジェクト」の事業を通じて、県内市町村社協との連携強化が図られる。</li> </ul>	
0201.ロジ拠点が地域に必要なものを発信できるようになる	課題解決に適した事業規模に基づき、人・モノ・カネがどれくらい必要か発信することができているか	ホームページ等広報媒体を通じて本事業におけるニーズを発信している	2024年3月	<p>達成状況 80%</p> <p>5月19日むすびやで「共食でつながるフェスタ」企画～実行委員会にて、「食の物流ネットワーク整備プロジェクト」に、全国食支援活動協力会と長野県・地域振興局・県社協、信州子ども食堂ネットワーク関係者ら約22名が、活動に必要な食料支援とあんしん手帖を使った衛生講習会の実施の取り組みを共有した。</p>	2

				<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動状況を HP で適宜発信している</li> <li>・Facebook は、連日掲載している。</li> <li>・ネットワーク便り 250 頁発信した。</li> <li>・NHK・新聞などメディア都度掲載</li> </ul> <p>9月15日午前中は、北海道・山口・鳥取・長野・チャイルド・食支援13名による「食の物流ネットワーク整備プロジェクト」中間評価の実施状況と全体「MOWLS プログラムの進捗共有」の会議と「おやきファーム」の工場を視察。</p> <p>続く午後は、11/12日開催の「共食フェスタながの」実行委員会を食支援活協・県・社協・企業・各種団体・信州子ども食堂ネットワーク27名で意見を交換し、①子ども食堂370ヵ所をめざす、②食の物流ネットワークの整備、③食支援・行政・企業・団体との連携強化と今後の「共食」に向けての意思結集した。</p>	
0202.支援地域内で協力してくれる企業・行政が増える	協力企業や自治体の数	①40企業・20行政・40団体との連携	2024年3月	<p>達成状況 70%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長野県 子ども若者局 次世代サポート課県民文化部人権・男女共同参画課及び各企業とのつながりを強めている。</li> <li>・塩尻市子ども教育部家庭支援課と塩尻市民生委員宅配事業で又、生坂村教育委員会母子家庭支援、立科町町民課など連携。</li> <li>・長野市環境部、松本市子ども部子ども福祉課・中野市など</li> <li>・長野県社協・各市町村社協など</li> <li>・各企業、団体、NPO など</li> <li>・企業団体等支援物資提供・寄附など</li> </ul> <p><b>食品寄贈 22社、資金寄付 3社、自動販売機設置協力 35社等</b></p>	2
0203.資金分配団体や他ロジ拠点同士が連携することにより、情報が集まる	他ロジ拠点からもらった寄付食品の量（システムから把握）	① 個数 40万点 ②重量 30ト	2024年3月	<p>① 個数 31万点⇒達成状況 77.5%（2022年度4～8月分）</p> <p>② 重量 35ト⇒達成状況 117%（2022年度4～8月分）</p> <p>当団体の取組が内外共に高く評価され、期待が大きく、信頼度も高いため、物資量も集まり、需要も高まっている。</p>	1

0301.食品寄付等を受け止められるハブ拠点（保管場所）が充足している	寄付食品を適切にストック・シェアできる ロジ拠点・ハブ拠点の設置数	本事業の計画で新たにハブ拠点を4カ所増し12カ所を目標とする。	2024年 3月	達成状況 142% ・飯山1、中野1、長野5、上田1、塩尻2 松本4、伊那1、岡谷1、諏訪1、計17カ所	1
0302.支援地域内の仕分け、配送に協力してくれる担い手がいる	活動に対して、担い手が足りているか	現在リーダー2人、サブ8人で専従体制を構築する。	2024年 3月	達成状況 70% スタッフ20名ほどいるが、予算上専従者体制は難しく、活動状況に応じて、活動費+謝金+旅費で対応している。	2
0303.ハブ拠点が安全に管理されている	ロジ・ハブ拠点が食品の取り扱いルール等を活用し、適切に運営できているか	事故なく、活動を行うことができている。 不慮の事故にも対応できるよう適切な対処方法をとっている	2024年 3月	達成状況 90% ・活動数、参加人員が増え続ける一方、無事故、無違反を継続。 ・全国食支援活動協力会の発行物「あんしん手帳」をフルに活用して安心・安全に衛生管理に努めている。 ・不測の事態には、賠償・損害など1事故最大2億円の保険加入を継続している。 ・初めて開くイベント等には、高齢者や子どもが安心して参加できる環境を整えるため、安心手帳による徹底や公衆衛生学の専門家(鷹野和美医学博士)コロナ対策のBCP(事業継続計画)アドバイザーになって開催している。	2

\*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他



② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 <input checked="" type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
スタッフや参加者に、感染者が出ないように、3密回避とマスクの着用や除菌・消毒などの徹底を図っている。





**弁当や菓子を提供  
松本で子ども食堂**

松本市NPO法人ホッ  
トライン信州は自「支  
えよう」(備忘)を設  
立し、同市の松本駅前  
公園で開き、弁当や  
菓子など子ども高  
齢者らに提供した。

弁当は業者から委託され  
た冷凍弁当、キリンサ  
ンドwichのサンドイッチ  
が主力で作った。おにぎ  
りや菓子ほか、生理用品  
なども配った。

青木麻尋専務理事は「  
物価の高騰で生活費の出  
費がかさみ、食料が苦し  
い」と訴えが寄せられ、お  
米は毎回提供するよう「  
たい」に定めた。



ホットライン信州は電話  
相談も受け付けている。ホ  
ットライン信州「支えよう」  
ダイヤル(0120)914994

**大和証券グループ  
子支援団体に寄付**

松本支店の団体  
松本市大手2の和  
証券松本支店では、  
と、大和証券グルー  
の創業120周年を記



念した「でも、  
の未定プロジェクト  
クト」の贈呈式  
が開かれた。専  
真。松本支店分  
として児童養護  
施設・松本市  
園(松本市島  
内)と生活困窮  
者の支援に取り  
組むNPO法人  
ホットライ  
とあいさつ。児童  
園は感染症対策で見送  
つてきた県外旅行が可  
能になった場合の費用  
グループ全体で全  
109の本支店が選定  
性に必要物品の購入  
を活動費などで  
と、それぞれ感謝し  
の創業120周年を記  
未定支援基金に、総た  
(鎌倉希)

こどく こりつ そうだん  
**孤独・孤立相談ダイヤル (試行)**

**#9999**

第1期 7月7日(木)10時~7月14日(木)10時

孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム

担当幹事団体

相談窓口協力団体

特定非営利活動法人  
NPO ホットライン信州

JAICO

日本精神保健福祉士協会  
Japanese Association of Mental Health Social Workers

メンタルケア協議会

チャイルドライン

**じょうほう交差点**

**孤独無料相談電話  
「#9999」試行  
あすから**

政府は5日、孤独や孤立に悩む人  
らの相談を24時間受け付ける無料の電  
話相談を7日前10時から「週間試  
行的に実施する」と発表した。番号は全  
国共通で「#9999」。14日午前10  
時まで、生活困窮や家庭内暴力などを  
含め幅広い相談に応じる。

新型コロナウイルス禍と物価高騰に  
対応する緊急対策の一環。民間の団体  
と協力して実施する。電話をかける  
と自動音声で「死にたいほしい方  
は3番」「孤独・孤立でお悩みの方は  
9番」などの案内があり、相談したい  
内容を選ぶと支援団体につながる。外  
国語の相談にも対応する。  
本年度中に計3回行い、本格的な  
運用が可能を検討する。

# 子どもの未来にご寄附が！

コロナ禍と物価高に不安・困難を抱える子どもと家族緊急支援

NPO ホットライン信州(信州子ども食堂ネットワーク)では、爆発的なコロナ感染拡大と物価高、弱い立場の子どもたちと家族にそのしわ寄せが及んでおります。

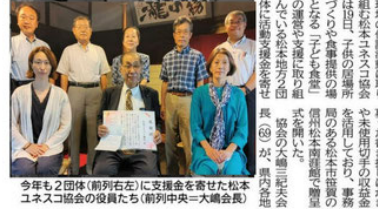
コロナ禍で苦労している、子どもたちを応援しようと、7/14日(株)ジン・コーポレーション様から26.6万円のご寄附をいただきました。7/19日は、松本ユネスコ協会様から10万円、7/20日に北信ガス(株)様より10万円を頂きました。夏休みの子どもたちのために活用させていただきます。ありがとうございます。



▲感謝状を手にする、(株)ジン・コーポレーションの社長と信州子ども食堂の子どもスタッフたち

市民タイムス

令和4年(2022年)7月21日 木曜日



子供の居場所作り応援  
禁煙支援協議会2団体に支援金



▲北信ガス(株)様より10万の寄附金を受け取る、NPOホットライン信州の福田事務局長

今年も2団体(前列右左)に支援金を寄せた松本ユネスコ協会の役員たち(前列中央=大嶋会長)

申込み  
問合せ

特定非営利活動法人 NPOホットライン信州

信州子ども食堂ネットワーク



0120-914-994

http://hotline-shinshuujindo.com/

## 長野市裾花小学校で、信州子ども食堂とSDGsの学び教室

5月17日(火)、長野市裾花小学校の3年と5年生170名に、信州子ども食堂とSDGsの関わりについての紙芝居と、企業から提供のジュースとタオルを全校生徒600名と関係者に配りました。

2022年5月18日(水) 信濃毎日新聞

### 学校なら行きやすい 夏休み 気軽に



裾花小の児童に子ども食堂を紙芝居で紹介する篠原さん親子(右)

### 長野・裾花小で試み 理解広げたい

17日には同法人長野地区担当の篠原修子さん(長野市中御所)と長野で高校2年の多緒さん(16)が同小に出向き、手作りの紙芝居などで子ども食堂を紹介した。野菜が苦手な小学生「しんちゃん」が子ども食堂で過ごす様子を描いた紙芝居に、3年生と5年生の計約60人が見入った。バランスの良い食事で健康やかな成長を促す子ども食堂は、国連が掲げるSDGs(持続可能な開発目標)の「すべての人に健康と福祉を」といった理念に合致することも説明。5年生の小林香介君(10)は「子ども食堂のことは初めて聞いた」と興味深そうに話していた。

信州子ども食堂は普段、市ふれあい福祉センターで月に1回開催している。出張は、篠原さんの子も同小に通っている縁などから実現。同小の津津賢司教頭も「子どもが地域に支えられていることを実感できる機会になると歓迎する。出張日は未定」。

篠原さんは「子ども食堂には『孤食』やひきこもりを防ぐといった役割もある。貧困家庭の支援というイメージが強く足を運ぶきっかけがなかった人

NPO法人ホットライン(信州・松本市)は今年の夏休みに、長野市の裾花小学校で「信州子ども食堂」を開く。同法人が関わる県内128カ所の子ども食堂は地域の公共施設などで開いており、小学校への「出張」は初めて。より子どもに身近な場所を開き、子ども食堂の存在を知ってもらおう狙いで、他の地域にも広げたいという。

# 小学校に「出張」子ども食堂



も、会場が学校なら利用しやすい」と話す。同法人専務理事の青木正昭さん(ひは)は「学校で開くことで、子どもたちが手伝いしてくれるような雰囲気になれる」と期待していた。



## 2021 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

### 評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	事前評価計画・自己評価策定	原山政幸	信州子ども食堂ネットワーク副代表・労協ながの 専務
内部	初期値 データ集計評価	高木徹也	学習塾講師 学習支援員・データ管理・企画立案等
外部	事前評価計画策定アドバイス	井原 聖	長野県県民文化部子ども若者局次世代サポート課
外部	事前評価計画策定アドバイス	小松幹典	長野県県人権・男女共同参画課県子ども・女性応援 PG

### A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

#### ① 短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
居場所	①居場所・相談ケア・食材配布拠点の数の変化（事業開始時との比較）／②域外、域内それぞれからの寄贈物資量／③資金的支援の調達状況	目標：子ども食堂数、200 ヶ所	2024 年 3 月	① 居場所は、140 ヶ所の信州子ども食堂ネットワークの各子ども食堂数・相談ケアも 20%の食堂で実施・食材配布拠点としての機能ができてきた。 ② 県内、県外とも寄贈数は半々であるが物資量は県外が 70%である。 ③ 資金的支援の調達状況は、助成金を中心である。 目標：子ども食堂数、200 ヶ所に対し、9 月中現在 140 ヶ所、目標に対する達成状況 68%に目標達成が微妙。
協力団体	具体的な企業・団体・行政の協力機関のリスト化／事前評価時からのエコマップの変化／持	目標：80 万点、200 トン強の受け入れ体制	2024 年 3 月	具体的な企業・団体・行政の協力機関のリスト化を図る。 事前評価時からのエコマップの変化持続可能な配送体制の確保の結果のまとめる時間がない。日々の活動で精一杯。 ⇒こちらにはリスト化した情報及びエコマップをもとに

	続可能な配送体制の確保（複数の事業者連携による倉庫の確保・無償配送支援など）			協力団体の過不足及び配送体制の充足度については、期待度が多ければ不足になるが、現状の物量に合わせて何とかやりぬいているのが実態である。 一番は、大きな物流倉庫などが、安価で貸してくれる場所が多くあることを求めてやまない。
共食、食育等食支援が必要な支援対象者	こども食堂・フードパントリー・宅配事業の実績と新しい支援対象者からの相談件数	目標：400回4万人の支援体制の構築	2024年3月	目標に対する達成状況が現時点で110%と目標がすでに超えている、急激なコロナ感染と物価高の英起用を受け、支援対象者が増え続けている現状である。 前年に比べ回数は約160回と同様であるが、参加人数は昨年1.3万人に対し、約2万人の7千人増えている。



② アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」（※任意）

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察
事業開始時よりも人・物・カネなどの確保が増え、子ども達への支援体制が充実しているか	<p>① 居場所 140 ヶ所、 相談ケア拠点 12 ヶ所 相談件数 1,395 件 生活支援 4,867 件</p> <p>② 食材配布拠点数 14 ヶ所 43 万点、54 ト</p> <p>③ 資金調達においては助成金が中心。寄附金 150 万円 寄付型自動販売機による寄付は 21 年度約 26 万円</p>	<p><b>【想定外の波及効果】</b> 当初は、指標とは設定していなかったが、寄贈が豊かになったことで、配り先がこども食堂だけではなく、こども食堂に参加できない生活困窮家庭への宅配事業が拡大している。</p> <p><b>【受益者のニーズの変化】</b> ・受益者のニーズの拡大に伴う、物資の質量とも増え続け、物資の管理、配送体制、敏速性が問われ、直面している課題が変わってきていることに対する体制の強化が問われる。</p> <p><b>【事業を支えるボランティア・担い手の確保】</b> ・モノが集まってきて保管配送のシステムを支えるスタッフ</p>

		の確保が課題。スタッフを確保するための活動は重点項目。
--	--	-----------------------------



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある</li> <li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある</li> <li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である</li> <li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい</li> </ul> <p>と自己評価する</p>	<p>目標に対する達成状況が8月末現時点で100%である、事業終了時に目標を上回る。</p> <p>また、配送体制も強弱あるが実態に合わせ構築できそう。</p>

B) 事業の改善状況の評価

① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の 適切性	食品などの受取、配送体制が事業開始時と比べ構築されているかどうか。配送体制が弱いルートはないかどうか。	エコマップ参照	<p>増えつづける寄贈物資の保管機能と配送体制について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・むすびやの拠点について・・・10t車は無理。4t車○。1階の物資を置くスペースの拡大はできない。長野市で10t車をつけられる場所の確保が課題。</li> <li>・塩尻の拠点について・・・常設の倉庫兼居場所として活動を開始している。</li> <li>・松本は、長野県の中心地にあり、10t車も対応できる。 更に、冷凍食品も1tは対応できる。</li> <li>・物流拠点も含めて松本と塩尻と長野の上田の4ヵ所方の場所が整備され、物量の増えた分は確保できるが、長野の冷凍冷蔵庫の移転が持ち上がってきた。←大きな課題となった。</li> </ul>
実施をとおした 活動の改善、 知見の共有	複数のステークホルダーとの連携により実現した食糧支援体制の事例が生まれているかどうか。	4つの社会福祉法人が連携して、支援食料の広域調整のためのパントリー（倉庫）を設け、ここを拠点として全県的な食の助けあいの推進や活動団体間の連携を促進	<p>もともと困窮者らを支援してきましたが2018年に近くに移転し、使わなくなっていた同市の救護施設「旭寮」の一部（延べ約100㎡）を活用しました。4社会福祉法人や関係団体の連携を目指し、より良い暮らしに結び付くことを願って「むすびや」と命名。</p> <p>今後、冷蔵庫も配備し、現在ホットライン信州も倉庫として一部活用しながら長野県社会福祉協議会、長野市社会福祉協議会、長野市社会事業協会、信濃福祉施設協会と連携を図っている。</p>
組織基盤強化・ 環境整備			



② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

③ 事前評価時には想定していなかった成果



④ 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <ul style="list-style-type: none"><li><input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる</li><li><input checked="" type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある</li><li><input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っている</li></ul> <p>と自己評価する</p>	<p>・爆発的なコロナ感染状況下と歯止めのかからない物価高に、支援者が急増している現状に、現在は限られた人員の献身的な激務でなんとかこなしているが、スタッフがコロナ感染になる高リスクを抱えている。</p> <p>・更に、こども食堂に足を運べない、車がない家庭への宅配、口コミによる希望者増え続けている。</p> <p>・コロナ感染者も身近に出てくるなど、すでにスタッフは限界である。</p> <p>・大量寄贈物資の荷受け体制を強化したことで、県内外から多くの企業・団体から食品物資を受入れ必要な子ども達へこども食堂を通じて分配することができている点で事業は計画通り進捗している。</p> <p>・また、委員会の結成、食フェスタの開催が県を始め県社協、地域振興局などとのステークホルダーと連携を深める機会となったことが事業推進の追い風となっている。</p> <p>・一方で、コロナにより受益者や事業対象グループのニーズに変化が生じてきており、こども食堂に足を運べない、車がない家庭に対する食糧支援の仕組みも射程に入れた事業計画の見直しが必要であると考えます。</p>

⑤ 中間評価結果を踏まえて今後注力したい、または早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

- ・昨今の円安の流れから、支援物資の受け入れ量が少なくなっている。一方で要支援者が多くなり需要と供給のバランスが崩れつつある。支援物資の受け入れ量の体制強化が求められる。
- ・長野市のデンバの冷凍冷蔵庫が10月30日撤収となり、受け入れ場所の確保が課題となっている。

添付資料 活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）

**ひとり親家庭などへ 大学生が 活動体験**

9月2日(水)、立命館大学と信州大学生が、NPO ホットライン信州が取り組む「ひとりの親家庭への支援物資袋詰め作業」と「コロナ感染と異なる物価高騰に苦しむ子どもと家庭支援の現状」について活動体験研修を行いました。

参加した学生からは、立命館大学3回生の米山みゆは「無様の子供に対する強い愛護、ネットワークを向島から広げようとする積極性を感じた。これが活動継続の大きな要因であると思った。」と喜ぶ、また立命館4回生の北谷真菜さんは「かなりの時間と労力を要することを実感し、作業を促進することや仕様の見直しなど見えない努力を感じました。活動を続けるためには高品質なネットワークが必要であると感じました。」との感想をいただきました。

信州大学1年の香入結城は「普段行われている支援の場には、こんなにも大規模な作業が行われているのが信じられませんでした。私もその支えの一部になれているんだと思うととてもやりがいを感じました。また長男が産後でたくさんの子も笑顔が輝いていることを初めて知りました。幸せなところでも私も自分で子ども達について学ばないといけない。支援の輪がさらに広がるよう努めていきます。」

10月開催の県大福祉実践研修会長野サテライトで、チャリティーバザー-救命活動を企画していますのでご参加をお願いします。

**MGプレス** 2022.9.10./Sat.

「子ども食堂」大学生が体験研修  
（ネットライン信州）活動の大切さ知って

子どもと家族を交えて  
一人親家庭の子どもと支援者

9月2日(水)、立命館大学と信州大学生が、「ひとり親家庭への支援物資袋詰め作業」と「コロナ感染と異なる物価高騰に苦しむ子どもと家庭支援の現状」について体験研修をNPO ホットライン信州の場で行いました。

その内容が、9月6日の「信州毎日新聞」に、続く、9月8日の「市民タイムス」に下記の記事が掲載されました。

2020年9月6日(日) 信州毎日新聞

**一人親家庭支援 学生が活動体験**

一人親家庭の子どもと支援者との交流を促す活動が、信州大学と立命館大学の学生によって行われた。NPO ホットライン信州が主催する「ひとり親家庭への支援物資袋詰め作業」と「コロナ感染と異なる物価高騰に苦しむ子どもと家庭支援の現状」について体験研修が行われた。

信州大学1年の香入結城は「普段行われている支援の場には、こんなにも大規模な作業が行われているのが信じられませんでした。私もその支えの一部になれているんだと思うととてもやりがいを感じました。また長男が産後でたくさんの子も笑顔が輝いていることを初めて知りました。幸せなところでも私も自分で子ども達について学ばないといけない。支援の輪がさらに広がるよう努めていきます。」

立命館大学3回生の米山みゆは「無様の子供に対する強い愛護、ネットワークを向島から広げようとする積極性を感じた。これが活動継続の大きな要因であると思った。」と喜ぶ、また立命館4回生の北谷真菜さんは「かなりの時間と労力を要することを実感し、作業を促進することや仕様の見直しなど見えない努力を感じました。活動を続けるためには高品質なネットワークが必要であると感じました。」との感想をいただきました。

10月開催の県大福祉実践研修会長野サテライトで、チャリティーバザー-救命活動を企画していますのでご参加をお願いします。

＜信州子ども食堂ネットワーク便り＞ 2022年09月12日 No.972

たてしなで初の わくわくフェス

立料町 たてしな「わくわく」フェス

「第1回たてしな「わくわく」フェス」が9月3日(土)、田中道戸田宿で行われました。参加者は、子ども144名と大人201名の345名でした。開始1時間前は大雨。開催中も雨が降ったりやんだりして天候には恵れられませんが、たくさんの子どもさんと親御さんにご来場いただきました。

子どもによる緑日ゲーム、高齢者によるわらわ・竹籠づくり、戸田宿本陣の見学、さきり織り・消しゴムはんこ・チェンソーアートの販売、キッズコーナー広場などたくさんの「わくわく」を楽しんでいた子どもたち。

また、「子ども・女性応援プロジェクト」として、NPOホットライン信州さんから提供いただいた生理用品や子ども用マスク・経乳食などの配布も行いました。この活動には、琴科高等学校福祉コースの2年生3人がボランティアで参加してくれました。

＜編集＞信州子ども食堂ネットワーク事務局 本事業は休眠預金を活用した助成を受けて実施しています  
無料相談・問い合わせ ☎ 0120-914-994 特定非営利活動法人NPOホットライン信州  
ホームページ http://hotline-shinshujmdo.com/ 各地での報告や開催日程などをご覧いただけます

＜信州子ども食堂ネットワーク便り＞ 2022年09月23日 No.976

物流施設を見学して意見を交換

長野市・上田市 信州子ども食堂ネットワーク

9月14日(水)～15日(木)に、全国食支援活動協力会の合同研修(15名)が行われました。ここ数年、企業からの食材提供が増加しているに伴って大型配送と受け入れができる「ロジハブ拠点」と「信州共食の拠点」を体感していただきました。

14日は、上田市で10トンの車に対応でき、大型冷蔵冷凍倉庫を完備している「まるこ福祉社」と、長野市で食料調整できる機能を備えた拠点「むすびや」を視察しました。

15日(木)午前中は、北海道・山口・鳥取・長野・食支援協会13名による「食の物流ネットワーク整備プロジェクト」中間評価の実施状況と全体「MOWLS」プログラムの進捗共有」について、「いろは堂」さんの応接室で会議を行い、その後「おやきファーム」の工場を視察しました。

おやきの種類が豊富で、おやきづくり体験ができるキッチンや、製造工程が見られるガラス張りの工場、屋上のテラスなどを見学し、今後の子ども食堂の広がりを確信しました。

午後は、旭寮の大会議室で、11月12日に関く「共食フェスタながの」実行委員会、食支援活動・県・社協・企業・各種団体・信州子ども食堂ネットワーク 27名で意見を交換し、①子ども食堂370カ所をめざす、②食の物流ネットワークの整備、③食支援・行政・企業・団体の連携強化についてなど、今後の「共食」に向けての意思結集しました。

＜編集＞信州子ども食堂ネットワーク事務局 本事業は休眠預金を活用した助成を受けて実施しています  
無料相談・問い合わせ ☎ 0120-914-994 特定非営利活動法人NPOホットライン信州  
ホームページ http://hotline-shinshujmdo.com/ 各地での報告や開催日程などをご覧いただけます



9月2日(木)、立命館大学と信州大学生が、「ひとり親家庭への支援物資袋詰め作業」と「コロナ感染と更なる物価高に苦しむ子どもと家庭支援の現状」について体験研修をNPO ホットライン信州の塩尻の拠点で行いました。

その内容が、9月6日の「信濃毎日新聞」に、続く、9月8日の「市民タイムス」に下記の記事が掲載されました👏。

2020年9月6日(火) 信濃毎日新聞

**ホットライン信州  
塩尻に新たな拠点  
子ども食堂や物資宅配**

県内で子ども食堂を開いているNPO法人ホットライン信州(松本市)は、塩尻市片丘に新たな拠点「信州子ども食堂しおじり片丘」を設けた。定期的に子ども食堂を開く他、食堂に出向けない家庭への物資の宅配を担う。

旧酒店を借り、3月から本格運用。地下室があり多くの食料を保管でき、相談室なども備えている。子ども食堂は月に2回程度、学習支援は毎



食料を袋詰めする学生たち

週開く計画だ。

今月2日には、子どもの貧困の研究や支援活動をしている立命館大政策科学部(大阪府)と信州大の学生計9人がひとり親家庭などに配る物資の袋詰めを手伝い、米や缶詰などとともにマスク、ハンドソープを入れた約120袋を作った。同法人専務理事の青木正照さん(72)は物価高騰で食料集めに苦戦していると、「もっと多くの家庭に渡したい」と話していた。

市民タイムス 令和4年(2022年)9月8日 木曜日(18)

# 一人親家庭支援 学生が活動体験

ホットライン信州 塩尻で

県内で子ども食堂を運営・支援しているNPO法人ホットライン信州の塩尻市片丘の事務所でこのほど、大学生9人が一人親家庭への支援物資の袋詰め作業を体験した。法人が同所に設ける「信州子ども食堂しおじり」で提供する弁当の試食もして活動に理解を深めた。

立命館大学で福祉や地域コミュニティを研究するゼミナールの3、4年生7人と、信州大学園祭実行委員会



支援物資を紙袋に詰める大学生

から提供された支援物資を置く拠点となっている。学生は紙袋にレトルト食品や生活用品を入れ120人分を用意した。

立命館大生はグループ調査で訪れ、調査結果を論文にまとめる。3回生の米山みやびさ

「活動の裏に多くの人の支えがあると実感した」と話した。

法人専務理事の青木正照さん(72)は「支援の仕組みを知り、体験を今後に生かしてほしい」と話していた。

(細野はるか)

ルポール」の体験회가19日午後6~9時に、安曇野市の三郷文化公園体育館で開かれる。ボールの打ち方などを

ん(20)は「子供を支援したいという強い気持ちがないとできない取り組み」と感心していた。信大生はボランティアとして参加し、学園祭のバザーで子ども食堂の取り組みを紹介する。人文学部1年の青木詩織さん(18)は